

平成26年度 せとうち海援隊活動実績報告書

団 体 名	盈進中学高等学校 環境科学研究部
代 表 者 氏 名	大北 祐治
担 当 者 氏 名	大北 祐治・古本 哲史
担当者住所・連絡先	<div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 200px; height: 15px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"></div> <div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 2px;"> <div style="background-color: black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 2px;"> <div style="background-color: black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> </div>

活 動 状 況

1. 備後灘の干潟群に生息する魚類について継続して調べています。特に、
 - ① 広島県最大の干潟である松永湾に注ぐ河川干潟。
 - ② ①に次ぐ大きさの芦田川河口堰干潟。
 - ③ 沼隈半島の小河川の干潟と前浜干潟，を時に応じて調べています。
2. 三原市・竹原市など、備後地域周辺での干潟についても、比較のため回数は少ないですが調べています。
3. すべての調査地点において、魚種・地点風景は写真記録を残しています。
4. また、貴重な資料と判断した場合は標本を作成し、要望に応じて専門委員さんにお渡しし、県の博物館に登録保管していただいています。
5. 淡水域も含めたクラブ活動の様子を、登録している全国子どもエコクラブに活動報告させていただいています。この3年間で約170回報告しています。
6. 本年度の部員数は、中学生10名・高校生7名、計17名です。
7. 広島県レッドデータ(2011)リストとなる魚種を確認した際は、できるだけ年間を通して生活環を把握できるよう追調査を実施します。
8. 極めて希少な種や広島県での初記録となる種を採集したときは、専門委員さんと連携して調査を進める場合もあります。
9. 調査内容・結果については、日々の活動の中で必ず学習会を持ち、理解を深めていくようにしています。

上記した内容に基づいて、今年度もできる範囲での活動を実施しました。
以下、報告します。

1. 芦田川河口堰干潟での調査結果と希少種の記録

No.	標準和名	学名	月日	平成25年度								平成26年度																									
				1208		1222		1223		1227		0104		0104		0215		0329		0415		0420		0427		0628		0706		0713		0726		0921		0112	
				調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点	調査人数	調査地点		
1	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>																	A																		
2	ガンテンイシヨウジ	<i>Hippichthys penicillus</i>			A																																
3	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>																			J																
4	タケノコメバル	<i>Sebastes oblongus</i>													J		J	J								A											
5	マゴチ	<i>Platycephalus sp.</i>													J	J		J								J	J				J						
6	クジメ	<i>Hexagrammos agrammus</i>													J	J																					
7	アサヒアナハゼ	<i>Pseudoblennius cottoides</i>													J																						
8	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>																		J	J					A											
9	ヒイラギ	<i>Nucequula nuchalis</i>																			A																
10	コショウダイ	<i>Plectrohinchus cinctus</i>																		J																	
11	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	J																																		
12	キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>																										J									
13	シロギス	<i>Sillago japonica</i>																								A											
14	シマイサキ	<i>Rhyncopelates oxyrhynchus</i>	J																																		
15	タケギンボ	<i>Pholis crassispina</i>													J	J																					
16	トサカギンボ	<i>Omobranchus fasciolatoceps</i>																													J						
17	ネズッポ属	<i>Repomucenus sp.</i>	A	A																	J	A															
18	タビラクチ	<i>Apocryptodon punctatus</i>				A																A							A		J						
19	トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	J																												J						
20	チワラスボ	<i>Taenioides cirratus</i>			A	J					A															A	A				J						
21	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>																	A																		
22	ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>								A															A												
23	キセルハゼ	<i>Gymnogobius cylindricus</i>			A	A																										A					
24	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>								A																											
25	ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>	A	A	A					A					A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A				J						
26	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	A																		A	A	A	A	A	A	A	A									
27	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>			A	A	A				A																										
28	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	A	A	A					A	A	A			A					A	A	A															
29	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>	A																																		
30	アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	A			A				A	J				A					A	A				A												
31	ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius sp. 2</i>	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A						
32	アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trignocephalus</i>			A	A	A				A	A																J	A		J						
33	シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	A	A	A	A	A	A	A																					A							
34	シロチチブ	<i>Tridentiger nudicervicus</i>																																			
35	シヨウキハゼ	<i>Tridentiger barbatus</i>																														A					
36	ホシガレイ	<i>Verasper variegatus</i>													J	J																					
37	イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>													J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J										
38	マコガレイ	<i>Pleuronectes yokohamae</i>													J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J										
39	クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>																															J				

赤: 広島県レッドデータ2011記載種

緑: 県の未記載種 新記録種 全国希少種

D: downstream point
(河口堰直下干潟)
A: adult
(成魚)

L: left bank point
(河口堰下左岸)
J: juvenile
(未成年)

R: right bank point
(河口堰下右岸)

① 広島県レッドデータ 2011 記載種の記録



タビラクチ 4月27日 県絶滅危惧Ⅰ類



トビハゼ 9月21日 県準絶滅危惧



チワラスボ 7月6日 県絶滅危惧Ⅰ類



エドハゼ 2014年1月4日 県絶滅危惧Ⅱ類



マサゴハゼ 4月15日 **県要注意種**

- ・エドハゼを除く4種で繁殖できていると考えられる。緊急に取り組む必要はないようだが生息密度は低く、今後も観察する必要がある。
- ・調査地点は広大な干潟のごく一部のため、エドハゼについては現段階では不明である。

② 広島県レッドデータ 2011 未記載種だが国指定種など



キセルハゼ 1月12日

- ・広島県では古い1つの文献に記載があるのみ。芦田川河口域での生息確認は今回が初記録。
- ・昨年度に続き生息確認でき、若い個体も生息しているので、繁殖していると考えられる。全国でも数例。県のリストに早急にあげた方がいい。



シロチチブ 7月13日

- ・広島県では古い1つの文献に備後地域の干潟での生息が報告されているだけである。その場所は不明。
- ・今回1個体のみ確認で、生息密度は低い。
- ・分布が限られていることから、県のレッドデータリストに早急にあげた方がいい。



ショウキハゼ 9月21日

- ・広島県では芦田川河口域でのみ生息が報告されている。生息域は比較的広いと考えられるが、生息密度は高いとはいえない。
- ・分布が限られていることから、県のレッドデータリストに早急にあげた方がいい。

③ 広島県レッドデータ 2011 とは関係なく、今後の動向に留意する必要がある種



ホシガレイ稚魚 4月15日

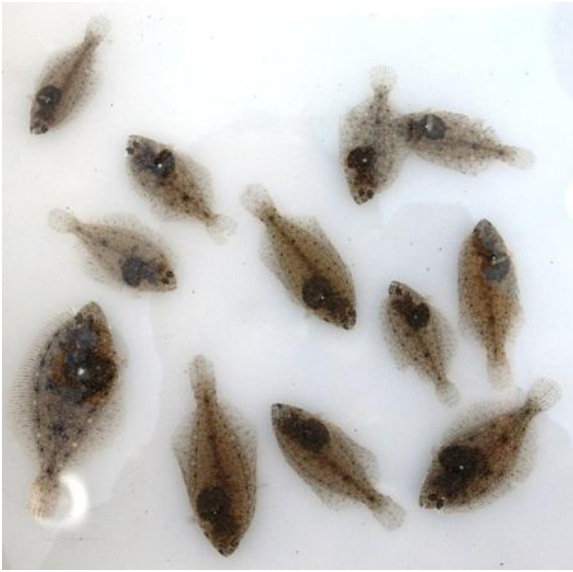
- ・広島県で稚魚の報告は初めてのようだ。本種は河口域で産卵を行うとされているため、芦田川河口域がその流域となっているのかも？
- ・高級魚として他県が繁殖・放流事業など試みていることから貴重であると思われる。
- ・採集したのは2個体のみ。



ヒナハゼ 2013年12月8日

- ・海水温上昇の影響で分布を広げつつあるとされている種で、瀬戸内海では安芸灘・伊予灘を分布の東限とされてきた。この2年、因島・三原そして芦田川での分布を確認したことから、今後も広がっていくことが予想される。

④ 漁業資源として重要な種



イシガレイ・マコガレイ稚魚群 4月20日

- 芦田川河口堰干潟は、松永湾干潟につぎ、広島県で二番目の面積である。その大きな干潟に3月になるとイシガレイ・マコガレイの稚魚がおびただしい数現れる。2種とも漁業資源として大切な魚であるだけでなく、釣りの対象魚としても大変人気のある魚だ。
- 2種とも産卵時に汽水域へと上がると言われているが、松永湾干潟では、これほど高密度のカレイ類の稚魚を見たことがない。一網で数固体必ず採集できた。
- 5~6月にかけて、稚魚たちは成長とともに次第に分散しているようで、周辺の海域で体長10cmを超える大きさになっていた。
- カレイ類は一例に過ぎないが、単に多様性の豊かさだけでなく、漁業資源を支える「稚魚の生育場」としても極めて貴重であるといえる。

2. 松永湾干潟流入河川での希少種の記録と調査結果

① 広島県レッドデータ 2011 記載種 (芦田川で紹介した種・よく知られた種は省略します)



チクゼンハゼ 4月19日 県絶滅危惧Ⅱ類

- 生息密度はかなり低い。生息場所も狭く、広い干潟の中に点在する。
- 昨年度に続き生息確認でき、若い個体も生息しているため、繁殖は行われていると考えられる。



ウキゴリ 6月29日 県準絶滅危惧

- 県東部の河川では、幼魚の段階はかなりの個体数みることができる。
- 成魚については、採集できる機会は少ない。



ゴクラクハゼ 9月21日 県準絶滅危惧

- 県東部では、島嶼部の小河川も含め、幼魚の段階はかなりの個体数みることができる。
- 成魚については、比較的大きな河川では確実に生息している。安定した個体群を形成していると思われる。

② 松永湾干潟流入河川での調査結果

No.	標準和名	学名	月日 調査人数 調査地点	平成25年度										平成26年度					
				0401	0427	0504	0609	0623	0623	1204	1204	0119	0419	0426	0531	0629	0629	1226	1226
				2	21	1	2	2	2	2	2	3	2	2	19	2	2	2	2
			HK	HK	HH	S	HH	S	F	HB	HK	HK	S	HK	HK	HH	F	HK	
1	アカエイ	<i>Dasyatis akajei</i>			A														
2	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		A								J		A	A				
3	ギンブナ	<i>Carassius auratus</i>							A					A					
4	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>							A										
5	カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>							A										
6	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>												A					
7	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>							A										
8	ガンテンイシヨウジ	<i>Hippichthys penicillus</i>			A		A						A						
9	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>		J								J		J	J				
10	メナダ	<i>Liza haematocheila</i>	J	A	J														
11	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>		A					A	A									
12	マゴチ	<i>Platycephalus sp.</i>				J	J												
13	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>			J	J		J				J							
14	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>											A						
15	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>		A			J						J						
16	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			A					J	J		J						
17	シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i>									J		J						
18	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>							A										
19	トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>		A	A		A			A	A	A		A			A		
20	チウラスボ	<i>Taenioides cirratus</i>				A		A											
21	シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>	A																
22	ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	A	A	A		J				A	A	A					A	
23	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>			A	A	A			A						A			
24	ドロメ	<i>Chaenogobius gulosus</i>				A													
25	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		A									J	A					
26	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>					A				A						A		
27	チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>			A		A				A								
28	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	A		A		A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
29	ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>				A		A		A			A				A		
30	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		A		A	J	A					A			A	A	A	
31	アジシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	A	A	A	A	A					A	A	A		A	A	A	
32	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>		A	A	A	A			A	A	A		A		A		A	
33	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		A		A	A			A						A			
34	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>																	
35	アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	A	A	A	A	A			A		A	A	A		A		A	
36	ツマグロシマハゼ	<i>Acentrogobius sp. 2</i>			A	A	A	A									A		
37	ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>	A	A					J		A	A		A	A			A	
38	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>		A									A	A	A				
39	アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>											A						
40	シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>			A	A					A					A			
41	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	A	A					A	A		A	A	A	A	A		A	
43	イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>			J														
44	クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>	A	A												A			

HK: 本郷川河口域

HH: 本郷川干潟域

S: 新川干潟域

HB: 羽原川河口域

F: 藤井川河口域

A: adult
(成魚)

J: juvenile
(未成魚)